

ARIBの動き

地域WiMAX推進協議会シンポジウム（第3回）を開催

10月27日(火)、東京都港区新橋の航空会館において、地域WiMAX普及活動の一環として地域WiMAX推進協議会シンポジウム（第3回）を開催しました。

来賓としてお招きした長谷川憲正総務大臣政務官からのご挨拶に続き、地域WiMAX推進協議会の三友仁志副会長(早稲田大学大学院教授)、安田靖彦顧問(東京大学名誉教授、早稲田大学名誉教授)からのご挨拶の後、講師2名の講演と、6名のパネラーが参加したパネルディスカッション、4名の協議会委員から技術部会活動報告、さらに本シンポジウムと同時開催した地域WiMAX端末・機器展示会の展示品説明がありました。

(株)野村総合研究所の桑津浩太郎様からは、地域WiMAXの可能性と題して、WiMAX市場の現状、通信市場の現状と競合サービスの動向、そして今後の市場展望についてご説明をいただきました。(株)愛媛CATVの白石成人様からは、サービス開始事業者の事例紹介として、愛媛CATVのWiMAX戦略についてご説明をいただきました。パネルディスカッションでは、「地域WiMAXはビジネスとして成り立つか?」と題して、(社)ケーブルテレビ情報センターの柳澤幸雄様をコーディネーターに、製造メーカーや地域WiMAX事業者をパネラーにお迎えして、活発な議論が交わされました。

金辺重彦技術部会長(玉島テレビ放送(株))他からの地域WiMAX推進協議会の技術部会活動報告では、「ローミングの在り方に関する要件書 第1.0版」や「地域WiMAX端末ガイドライン 第1.0版」の紹介をはじめ、地域WiMAXのベンダーによる相互接続性テストの実現に向けた活動、ビジネスモデル実現のための技術的課題について報告されました。

200名にもおよぶ受講者で会場は満席となり、皆様には熱心に聴講をいただきました。

また、別会場では、地域WiMAX関連機器メーカー9社による地域WiMAX端末や関連アプリケーション等のデモンストレーションが行われ、実機を前に熱心な意見交換が行われました。



シンポジウムの様子と長谷川政務官（右上）、講師の桑津様、白石様（左から）

## ARIBからのお知らせ

### 「ハイビジョン・システム評価用標準動画像 第2版」 発刊

当会の品質評価法調査研究会では、これまで様々な標準動画像の制作を行ってきました。

特に1993年（平成5年）、前身の放送技術開発協議会（BTA）がテレビジョン学会（現：映像情報メディア学会（ITE））と協力して制作した「ハイビジョン・システム評価用標準動画像」は、長年にわたり、ハイビジョン及びデジタル放送・通信の発展に大いに貢献してきました。しかしながら、制作から10数年が経過し、その後の撮像・記録・表示をはじめとする映像機器の性能向上も著しいこともあり、最新の映像機器やシステム評価に適した新たな標準動画像の要望が高まっていました。

こうした中、高品質化が進む映像システムや多様な映像サービスに対応するため、映像情報メディア学会の監修のもと新たな標準動画像を制作し、「ハイビジョン・システム評価用標準動画像 第2版」を発刊することになりました。本標準動画像は、映像情報メディア学会と当会の品質評価の専門家が長年の経験と知見をもとに議論を重ね、企画・制作を進めたものであり、以下の特徴を有します。

- ・ ITU-Rスタジオ規格に準拠した有効走査線数1080本ハイビジョン映像
- ・ 最新のカメラと記録機器を用いて制作した10ビット／画素の非圧縮映像
- ・ 実際の放送コンテンツに近い性質の「一般画像」と、特定の評価に適した性質の「特殊画像」に分類して提供
- ・ 同様のシーンを撮影した1080/60iと1080/60pのシーケンスを制作、さらに1080/50i, 1080/24pのシーケンスも一部作成

- YCbCr 4:2:2フォーマットに加え、RGB 4:4:4フォーマットのデータを用意
- 夜景や音楽ライブ、ドラマ、スポーツ、色鮮やかな被写体映像など、多様な絵柄を収録



「ハイビジョン・システム評価用標準動画像第2版」は、放送事業者や映像機器メーカーをはじめとする映像に関わる多くの関係者に、次世代映像技術研究の促進と本格化するデジタル映像メディア時代の様々な要望に応えるものとして、広く活用されることを期待し、ご案内致します。

### シリーズ内容表

	Aシリーズ (インターレース)	Bシリーズ (プログレッシブ)		Cシリーズ (Aシリーズを変換)
映像フォーマット	4:4:4/59.94i 4:4:4/50i	4:2:2/59.94p	4:4:4/24p	4:2:2/59.94i 4:2:2/50i
カラーモード	RGB	YCbCr	RGB	YCbCr
ファイル形式	連番TIFF	連番YUV	連番TIFF	連番YUV
シーケンス長	タイトル(1 sec.)+ 本編(15 sec.)	タイトル(1 sec.)+ 本編(15 sec.)	タイトル(1 sec.)+ 本編(15 sec.)	タイトル(1 sec.)+ 本編(15 sec.)
メディア	片面2層DVD	片面2層DVD	片面2層DVD	片面1層DVD

### 【シーケンス数】

- 4:4:4/59.94i 45本 (一般画像：26本、特殊画像：19本)
- 4:2:2/59.94p 33本 (一般画像：18本、特殊画像：15本)

1シーケンスを1枚のDVDに収録し、シーケンス単位で頒布

#### 一般画像の例



#### 特殊画像の例



サンプル動画像及び解説書は映像情報メディア学会のホームページからご覧いただけます。

<<http://www.ite.or.jp/>>

#### 【価格】

基本価格： 会員価格 14,700円／1シーケンス（内消費税700円）

非会員価格 16,170円／1シーケンス（内消費税770円）

ARIB会員には会員価格が適用されます。また、購入数に応じて割引価格もあります。

#### 【頒布開始】

2009年11月1日

#### 【頒布問合せ先】

(財) NHKエンジニアリングサービス 企画業務部

〒157-8540 東京都世田谷区砧 1-10-11

TEL 03-5494-2406 FAX 03-5494-2152

<http://www.nes.or.jp>

## 電気通信・放送行政の動き

標準テレビジョン放送等のうちデジタル放送に関する送信の標準方式の一部改正案等に対する意見募集の結果及び放送事業者への要請  
地上デジタル放送における「緊急地震速報」の伝送の高速化

【平成21年10月30日の総務省報道発表から】

地上デジタル放送における「緊急地震速報」の伝送の高速化に向け、標準テレビジョン放送等のうちデジタル放送に関する送信の標準方式の一部を改正する省令案等について、平成21年9月10日から同年10月9日までの間、意見募集を行ったところ、5件の意見をいただきましたので、いただいた意見及びこれに対する総務省の考え方を公表いたします。

また、総務省は、本日付け文書にて、日本放送協会及び（社）日本民間放送連盟に対して、地上デジタル放送における「緊急地震速報」の伝送の高速化の早期導入に向け検討を進めるよう要請しました。

### 1 背景

放送メディアは、災害の予防や被害軽減のために役立つ情報の提供に、極めて重要な役割を果たしていますが、平成19年10月に気象庁により開始された「緊急地震速報」については、地上デジタル放送における現行の手法での伝送の際には、情報圧縮等のデジタル信号処理に伴って送受双方で処理時間を要しており、この短縮に対し社会的要請が高まっています。

このような状況を受け、「緊急地震速報」の伝送を高速化する技術的手法について検討を行ったところ、(1)現状の受信設備での高速化改善手法及び(2)受信設備の設計変更を伴うが抜本的な高速化を実現する手法により高速

化が可能であることが分かりました。このうち、(1)の手法については民間の自主的な取組により早期に実現可能ですが、(2)の手法については技術基準の改正が必要なため、この実現に向けて規定の整備を行ってまいりました。

## 2 意見募集の結果

改正する省令等について、平成21年9月10日から同年10月9日までの間、意見募集を行ったところ、5件の御意見をいただきました。いただいた御意見及びこれに対する総務省の考え方は別添のとおりです。

## 3 省令等の公布

平成21年10月14日に受けました電波監理審議会からの答申及び意見募集の結果を踏まえ、本日、省令等を原案どおり公布しました。

## 4 放送事業者への要請

総務省は、日本放送協会及び（社）日本民間放送連盟に対し、地上デジタル放送における「緊急地震速報」の伝送を高速化する手法の早期導入について検討を進めるよう、本日付け文書で要請しました。

詳細は<[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/02ryutsu08\\_000025.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02ryutsu08_000025.html)>をご参照ください。

## 編集後記

---

秋雨が冷たく、すっかり日も短くなって11月7日には立冬を迎え、冬の気配を感じるこの頃です。

私はCEATEC JAPANのARIBブースや電波産業年鑑の業務担当として、ここ数ヶ月多忙であったのと、近距離の移動には運動不足解消のために自転車を利用していても、気がつけば半年近くも愛車を走らせていませんでした。その結果、予想通りバッテリーが上がっていてエンジンがかかれず、JAFに来てもらうはめになりました。ここからが想定外で、バッテリーを繋いでもエンジンが動きません。結局そのままレッカー車でディーラーまで愛車を運んでもらいました。ちなみにこれらの費用は、JAF会員なので無料でした。

故障の原因ですが、なんとガソリンが腐って（粘性が増してガソリンタンクからエンジンへスムーズに流れなくなる）しまったためでした。ガソリンを入れ換えて、無事走れるようになったのですが、ディーラーからは乗らないのであれば維持費がもたないないので、廃車（16年目を迎え、6km/リッターと今では考えられない“反エコ”の車）にすることを勧められました。愛着もあり廃車は忍びなく、かなり悩んでいます。

(S.K)